

ジェットグラフ草加ファクトリーで特別内覧会

# HP社製インクジェットプリンター Latex R2000 導入で 段ボール印刷をデモンストレーション



Latex R2000



プレゼンをする谷口氏

有功社シトー貿易(株)(谷口有三社長、本社〓東京・北区)は7月5日、埼玉県八潮市のジェットグラフ(株)草加ファクトリーで、「HP Latex R2000 インクジェットプリンター」特別内覧会を日本HP(株)と共催した。谷口有三社長は「このモデルは段ボールインクジェットプリンターで初の白インク搭載と、臭いが気にならない水性インクの採用により、今までにない美しいフルカラー印刷ができる

る。また、段ボールだけでなく、さまざまな素材に印刷が可能でビジネスの幅が広がる。段ボールがまさに美粧印刷の時代に突入しているなか、今日の内覧会が、皆様の明日のビジネスチャンスをつかむ一助になればと思います」と付加価値パッケージづくりをアピール。さら

には、「いまデジタル印刷機は、1台でさまざまな仕事ができることで話題になっているが、多くのビジネスチャンスを包含していることはあきらか。今日は実際にどのような製品ができるのかをぜひご覧いただきたい」とあいさつし、スタートした。

午後1時30分から始まった特別内覧会は、実機見学の前にセミナーがおこなわれ、まず(株)日本HPの青洋明氏(Latex事業本部)がHP社開発のデジタル印刷機の歴史、ラテックス機の特徴、さまざまな素材への対

応、ビジネスへの広がりの可能性などを説明した。

■青氏「段ボール印刷に最適なHP Latex」

「HP社がデジタル印刷機を開発したのは、20年以上前からだが、ラテックスについては10年ほど前からで、ほかの機種に比べるとやや若い。最大の特徴は水性インクを使用しているにもかかわらず、プラスチック素材にも印刷ができ、耐候性にも優れるインクジェットプリンター。当初は、お客様から手間がかかりすぎる、などご意見をいただいたいたが、多くの要望を取り入れながら開発改良をすすめ、2018年にRシリーズを発表した。現在、世界で使用されているLatexプリンターは約5万台で、年々伸長率は8%増を更新している。さらに各社開発のデジタル印刷機においては、インクの種類により得意な素材が確定することが多



く、たとえば水性顔料インクなら紙・フィルムに適性があり、溶剤系インクでは塩ビ系の素材に適性があるが、このラテックスにおいてはさまざまな素材に対応できる。HP Latex inkがオペティマイザーインク（滲み防止剤インク）の上に着弾する仕組みだ」と語った。

段ボール印刷については、段ボール包装の動向（短納期やサステナビリティ）をあげながら、「前処理+後工程の作業効率に着目してプリントOSも開発。インターネットにプリンターを接続して、工場内での工

程を見える化した。ダウンタイムをなくして、効率化がはかれることがこの新鋭デジタルマシンの特徴」とした。

■谷口氏「Packaging Solutionという道を行こう」

有功社シトリー貿易の谷口氏は「Packaging Solutionという道を行こう」をテーマに、昨今の段ボール事情を含め、今後さらに発展を続けるにはどのような方向に向かえばよいのか—など、具体策を示しながらレクチャーをおこなった。

段ボール産業を含めた包装産業界の現状について「包装産業

は体質的に受注産業であり、お客様の要求（品質・価格・納期など）をいかに満たしていくことが大きな使命となっている。段ボール市場は安定的に成長をしていることも事実であり、元

気のいい段ボール企業も存在している。そういった企業の共通点としてあげられるのが、価格競争に陥らないこと、提案力を伸ばしていること、さらに受注産業からソリューション産業へと転換していること—など。一例をあげるなら、「高付加価値」の段ボール箱をいかに提供していくかで、その会社の発展が左

右されるといっても過言ではない。このことは欧州のボックスメーカーを見ればよく理解できることで、段ボール箱にもより美しいデザイン・印刷をおこなって提供することにより、中

身商品の販促効果を大いに高めている。とくに一般的な青果物・食品・雑貨類などは、SRP（シエルフレディパッケージ）、RPP（リテルレディパッケージ）などの高付加価値印刷の段ボール箱、つまり美粧段ボール箱でディスプレイされている。消費者は遠目からでもその商品がどのようなものなのかをすぐに確認できる。たとえば中身商品がケチャップなら、段ボール箱の側面に文字だけでケチャップと印刷するよりも、プラスチックに入ったトマト色のケチャップを印刷したほうがわかりやすく、さらに、ソーセージにケチャップをかけた絵柄があれば、商品のストーリーが広がり購買意欲をかきたてるのはいうまでもない。FEFCO（欧州段ボール協会）の調べでも、世界の美粧化傾向はあきらかに急伸している」と説明、このあと同社が製作した美粧段ボール箱を紹介した。

刷機「Latex R2000」で印刷をした段ボール箱。白ライナにAB段で津軽鉄道・キャラクター・リングゴをフルカラー印刷した販促プロモーション用の段ボール箱だが、海外にこのリングゴを輸出しても問題がないように設計が施されており、1000×1200のパレットにもきちん

と収まるサイズとなっている。海外のスーパーで、縦積みして置かれても、他の商品となら遜色なく、素敵なパッケージに仕上がっている。メイド・イン・ジャパンの果物がさらに一目置いて受け入れられるのではないかと自負している」と語った。

この美粧段ボール箱は、東京紙器工業組合主催の「ハコの日」2019（東京・丸の内KITTEで8月2日・3日開催）に出展された。

■山口氏「Latex機をつかっての印刷」

このあとジェットグラフ（株）東京事業所所長の山口氏が、「Latexプリンターを使ってインクジェット印刷を実演した。

「Latex R2000」プリンターは、これまでにない鮮やかなカラーと光沢感のあるホワイトで、段ボールなど厚紙素材への高品質・高画質印刷が可能」と説明しラテックスの高い印刷性能を披露した。



津軽鉄道と「つがるりんご」をアピールした輸出用段ボール箱



インクカートリッジ